

平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業 先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート

【基礎データ】					
フリガナ	エフ・オー・ホジソン ウェブスポーツクラブ ニジ ユウイチ ニシヨクブ				
クラブ名	NPO法人 ウェブスポーツクラブ21 西国分				
活動地域	福岡県都・道 久留米市・区 西国分小学校校区地区 府・県 町・村				
市区町村の人口	約15,000 名	クラブ設立年	H . 1 4 年	クラブ会員数	620 名
当該地域の小学校の数と児童数	1 校			1,090 名	
当該地域の中学校の数と生徒数	1 校			650 名	
主な活動スポーツ種目		Jrサッカー・Jrバレー・ミニバスケット・空手・バレー等全23種目			
フリガナ	イフク ヒロシ		クラブでの役職名		代表理事
クラブ代表者名	伊 福 浩				

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	2002年1月26日発足 → 2004年3月にNPO法人格取得
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	
西国分校区（人口15,749人、世帯数6,077）では、昭和48年頃から一世帯当たり20円、昭和55年頃から30円を体育後援会費として徴収し、体育後援会が中心となって、指導者研修会やスポーツ講習会、地域クラブの活動助成を行ってきた。したがって、地域住民のスポーツ活動に対する意識は高く、月1回の施設運営委員会にもクラブ代表者が必ず出席し、関係者が同じテーブルについて地域スポーツのあり方について議論ができていた。平成11年度からは、現在の社会情勢やスポーツを取り巻く環境の変化、及び総合型地域スポーツクラブの考え方等について、公民館関係者、地域スポーツ関係者、及びクラブ代表者に説明を続けるとともに、3年間にわたって、大学の先生を講師に招いた「校区指導者研修会」においても、総合型地域スポーツクラブに対する地域住民の共通理解を図り、その必要性やメリットを理解してもらっている。	

【2. クラブの一般的特徴】

(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移（学校区別）					
・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2001年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2002年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2003年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	
・2004年	西国分小学校区・ 436名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 436名	
(4) 活動種目の内容と数					
クラブ・サークル活動（23種目のクラブの内、登録クラブは18クラブである）					
○ジュニアのクラブ：少年野球、ミニバスケット、Jr.サッカー、少年剣道、Jr.バレーボール・ミニソフトバレー、童女木和太鼓、スポンジテニスの7種目					
○大人のクラブ：フレッシュエクササイズ、柔道、合気道、バドミントン、女子ソフトボール、女子サッカー、成人サッカー、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ゴルフ、社交ダンス、卓球、ママさんバレーボール、ソフトバレーボール、成人バレーボールの15種目					
○ジュニア・大人のクラブ：空手道の1種目					
計 23種目					
スポーツ教室・大会等（年間）：○上記種目と同じ教室＝16教室＋Eポート、救命救急講習会、こどもカヌーの19教室					
○大会＝Jr.バレーボール交流大会、校区ウォークラリー大会、ほか6大会					

(5) 活動圏域（校区等の特徴）
西国分小学校区は、市の商業中心部から1kmの主要幹線沿いにあり、古くから住宅地と高層マンションが混在する地域環境にある。人口は15,749人(男性7,346,女性8,403)であり、0～14歳2,822, 15～64歳10,587, 65歳以上2,340である(平成14年1月1日現在)。世帯数は6,077世帯である。 また、スポーツ活動に必要な地域施設は、西国分小学校体育館・グラウンド、諏訪中学校体育館・グラウンド、西国分公民館、勤労青少年ホーム、サンライフ久留米、エールピア久留米、童女木池周辺ウォーキングコース、久留米総合スポーツセンター、クラブハウスの多目的ホール・談話室と多数ある。さらに、スポーツ関係運営組織としては、体育後援会
(6) 定期的な活動内容
上記(4)のクラブ・サークル活動と、上記(4)のスポーツ教室を「ファミリー交流行事」「子ども交流行事」「初めての子どもスポーツ教室」「成人交流行事」「初めての成人教室」「研修会・講習会」に分けて、年間を通して実施している。その際、地域社会における校区行事を加味した形での企画・運営を行っている。
(7) イベント等の不定期的な活動の特徴
市町村同士で住民のスポーツ参加率を競う巨大スポーツイベント「チャレンジデー2004」(笹川スポーツ財団)へ参加し、参加者数7,082人(人口15,704人、参加率45.1%)で、銀メダルを獲得している。 このチャレンジデー2004への参加により、クラブのPR活動にもつながった。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)
大変バイタリティーのある方で、地域のみなさんを長年引っ張ってきています。空手の指導者でもあり、スポーツ振興への先進的な考えを持っている素晴らしい方です。
(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか
新しいスポーツ環境の構築とこれからのスポーツ振興のあり方を見直す上で大変素晴らしい企画であり、よいタイミングであった。また、久留米市をはじめとする近隣の市町村へのモデルとしての位置づけがなされたから。さらには、平成10年度に行われた西国分指導者研修会(3月初旬)での講演が総合型クラブづくりのきっかけにもなった。
(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか
スポーツ活動や指導をしていく上で、「スポーツの保健室」「まちの保健室」となるようなクラブを創りたかった。

【４．クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き
校区公民館関係者（館長・主事・各部会長など）、体育指導委員、体育部員、各クラブの代表者・監督・保護者、市の体育関係者、広域スポーツセンター関係者、県生涯スポーツ担当者、クラブマネジャー養成セミナー受講者
(12) いつ、どこで
第１月曜日１９：３０からクラブハウスで、また第１金曜日１９：００からクラブハウス（施設開放委員会と同時開催）で、運営委員会を開く。
(13) どんな人たちによって
上記(11)のメンバー
(14) どんな内容を決定しているのか
クラブ運営全般について
(15) 意志決定をスムーズにするための工夫
みなさんの意見を聞き、とまかく動ける方向で進めるようにしている。

【５．クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数
○運営委員会＜理事長１名、副理事長２名、理事１１名、監事２名＞ - 事務局３名 - 各部会＜NPO取得部会３名・研修部会３名・広報部会４名・教室運営部会３名・イベント部会３名＞ なお、詳しくは、http://www.kumin.ne.jp/web21/web21/1p/top1.htmの活動組織図参照を参照のこと。
(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと
各クラブの方々にご協力頂いたこと、公民館関係者に協力を頂いたこと。

(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点） 人数が増えすぎないようにしたこと（あて職を増やさないように）。
(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算） ア）自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む） 会費収入，教室収入，多目的ホール貸し出し収入，チケット販売収入，自販機販売収入，コピー機収入，助成金（スポーツ振興くじtoto） イ）財政規模とその主な支出内容 800万円程度を予定しており，支出は主に指導員謝金，大会経費，クラブハウス光熱費，コピー機リース代，印刷費，多目的ホール常設の備品，各クラブへの備品，事務消耗品，事務員給与，クラブマネジャー給与 ウ）委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて） 現在，委託事業は小・中学校施設開放委員会(15,000円補助)，体育後援会(協賛金100,000円)，クラブハウス管理，ナイター照明コインの管理（公園管理法で設置）などである。

【6.クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方 Web21スポーツクラブ西国分は，青少年の健全育成，地域住民の生涯スポーツの推進のために活動を始めた。西国分校区が，元気で連帯感あふれる街になるため長期的な視点から，スポーツだけに留まらずボランティアなどの幅広い活動を行い，Web21西国分に所属するクラブや学校，校区公民館などの連携を図り将来の指導者やスタッフの育成も図っていくことを目指している。
(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ 校区内におけるスポーツに関する窓口的存在。
(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの） 近い将来，クラブハウスの利用が満杯になり活気あるものにしていき，スポーツと健康に関することをこのクラブを中心に行っていきたい。そして，地域の方々の健康とスポーツ振興を見守れるような場所にしていきたい。また，イギリスやドイツのようなクラブにしていきたい。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無→有る場合はその概要（住所や所有権など）
新設されたクラブハウスの所有権は、久留米市にある。 住所は、福岡県久留米市諏訪野町1562 - 1（西国分校区公民館横）である。
(24) 練習・活動拠点→当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)
小学校体育館・グラウンド，中学校体育館
(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）
体育館の老朽化，グラウンドの狭さ，地域内に広場や遊び場がなくなっていること。
(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数
4 箇所

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）
学校施設開放での協力・連携，広報誌等の配布，イベント参加の協力依頼，体育館や校舎内に掲示板の設置など。
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）
校区公民館，久留米市教育委員会（体育・スポーツ課），広域スポーツセンター，県教育委員会生涯スポーツ班，既存スポーツクラブなど。
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因
定期的な会議や集会でのコミュニケーションづくりと「飲みにケーション」

(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）
報告・連絡を疎かにすること。
(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット
既存スポーツクラブは、「初めてのスポーツ教室」を行うことで、教室に関わる指導者謝金や経費・備品等の援助を受けるとともに、新規会員獲得にメリットもある。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例
地域社会におけるスポーツ振興をよく理解していただくこと。
(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）
クラブに加入することのメリットを物質的な要因で強調しないこと。
(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容
クラブ運営全体や青少年スポーツの活性化に特に力を入れていきたい。また、中高年者の健康づくりにも力を入れていきたい。
(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）
青少年にはトップアスリートを目指させる。中高年者には健康・体力の維持向上に注目していただき、活力あるまちづくりに協力してもらう。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い
総合型地域スポーツクラブは何をしようとしているのかが地域社会に少しずつ浸透し始めてきたこと。

(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由 長年にわたって、地域スポーツ振興の基盤を築いてきたこと。
(38) 成功したと思われる決定的な要因 公民館関係者をはじめ、既存クラブの会員や保護者の方々の多大なる協力があったこと。
(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか 指導者の位置づけやマネジメント資格を明確にしてほしい。
(40) 現在、悩んでいること、困っていること 今後、助成金等がなくなったときの具体的な対策を今からどのように立てておけばよいのか。

ご協力、ありがとうございました。